

理 科 授業改善推進プラン（平成29年度）

文京区立第十中学校

（1）学習の状況と課題

- 1年 意欲的に取り組む事ができ、理科学的な関心が高い。言語表現を得意とする生徒が多いが、基本的な知識の定着に課題を抱える生徒が多い。
- 2年 授業態度がよく、真面目に取り組む事ができる。実験でも意欲的に取り組める。図表の作成読み取り、計算など、実験のデータ処理に課題がある。
- 3年 授業に意欲的に取り組んでいる。基礎的なことをもとに、自ら考え、表現することによって、定着をはかることが課題である。

（2）指導改善の観点（課題解決のための具体的な授業改善策）

- 1年 基礎の反復をする活動を増やす。身近な現象について共同的に学習する活動を増やして既習事項を活用することにより、基礎を定着させる。
- 2年 グラフや記号で表すこと授業の中で繰り返し行い、実験から見いだした規則性を言葉以外の方法で適切に表現できるように訓練する。
- 3年 小グループで意見を交わしながら科学的に思考することを習慣化させ、表現することに自信を持たせる。

（3）指導方法改善のポイントと方策

- 1年 小テストを繰り返すことで基礎の定着をはかるとともに、身近な事象と関連づけて実験を行うことで探求心を高め、知識を活用できるような思考力を養う。
- 2年 化学式や化学反応式は、小テストなどで繰り返し取り組ませる。また、グラフの作成、読み取りについては演習問題を増やし、個別に小さな疑問等に対応する。
- 3年 小グループで話し合い、助け合いながら課題に取り組ませたり、マグネットやボードを用いてモデルを作りながら考えさせたりし、既習事項を活用して基礎の定着をはかる。グループで考えた後、個人でも改めてまとめを行うことにより、各々が理解できるように工夫する。